

# 「三笠」見学会

大網島町 藤沢勝一郎（東本町四丁目出身）

今回の勉強会は、二月十九日（土）、横須賀市三笠公園にある記念艦「三笠」の見学会です。参加者は十四人。この日は晴れ、春のような暖かさで風もなく、絶好の見学日和、すぐ近くに猿島も見えます。

「三笠」は東郷平八郎司令長官が乗艦し、一九〇五年五月二十七日、日露戦争時に日本海対馬沖でロシアのバルチック艦隊を迎え撃ち、壊滅させた時の日本海軍旗艦です。あれから百年以上経ち、その頃の国内の興奮を知る人はいなくなっていました。艦内に入ると直ぐに広報担当の曾川さんからの説明と、当時の世界情勢、日露交渉状況、Z旗を掲げての戦闘状況など二十五分程にまとめたビデオ上映。その後は、各自思い思いに艦内見学です。三十名主砲、東郷長官が指揮を執ったデッキやレリーフ、艦長室、

士官室、応接室、海軍中尉以下の人達が使った吊り床（ハンモック）、開戦早々負傷した敵司令長官・捕虜となったロジェントウエンスキー中将・敵兵救助等の生々しい絵画、その他パネルなど我が海軍軍艦の装備や兵員你的生活空間、艦船の配置・戦闘までの航跡、戦闘状況等々、もちろん「Z旗」や「皇國興廃在此一戦……」の額字、ユックリ見たら半日以上はかかりそうです。三笠は、司馬遼太郎原作のNHKドラマ「坂の上の雲」のロケ地としても使われ、ドラマ効果で平成二十一年度の観覧者数は三十七年ぶり

に十五万人を超え、その後も大勢の観覧者があるとのこと。日本海海戦後の「三笠」について、平成二十一年十二月九日の朝日新聞は、次のように書いています。

『三笠は、日露戦争から帰った佐世保

で爆発事故を起こし沈没。引き揚げて修理したが、ワシントン軍縮会議で廃艦が決まった。保存を求める声が上がリ、東郷を名誉会長に「三笠保存会」が設立された。

災難は続いた。終戦後、連合軍の占領政策で艦橋やマストなどが撤去され、四十八年まで米軍の管理下に置かれた。国への返還後もダンスホールになるなど、盗難でさらに荒れ果てた。

十年後、米海軍のニミッツ元帥が雑誌「文芸春秋」に「三笠と私」の一文を載せた。ニミッツは日露戦争後、若い士官候補生として来日時に東郷と歓談し、後に東郷の葬儀にも出席した。皮肉にもその後は日米関係の悪化で、真珠湾攻撃直後は太平洋艦隊司令長官に任命され、日本相手に指揮をとった。東郷を尊敬していたニミッツは戦後の三笠の荒廃ぶりを耳にし「ミカサがいま悲しむべき状態にあるとは甚だ残念」と驚いた。ニミッツらの声に触発され、米海軍が揚陸艦を売却用に寄贈するなど、国内外から約一億八千万円の寄付金が集まり、三笠保存会も再建された。』

見学会が終わって、街へ出れば車歩道分離用の鉄杭には、「イカリ」のマーク。海軍の街だったことを実感。この日、名物の海軍カレーを食べ損ねた人は数人でした。

